

教育学部 第一期生に聞く！ 私たちがめざす「教育者」の姿



優れた教育者との出会いが 次世代の教育者を生む

荒井 本日は共栄大学教育学部の第一期生となる皆さんから、なぜ教育学部に進み、将来はどんな教育者をめざすかなど、教育学部で学んでいくうえでの率直な気持ちをお聞かせしたいと思います。

内田 僕は以前から教師という仕事に魅力を感じていて、将来は学校の先生になりたい、そのためには教育学部に行こうと思っていました。

岩崎 私も小学生のときから、将来は絶対に小学校の先生になりたいと思っていました。共栄大学の教育学部を志望したのは、新設学部なので授業の内容などにもとても力を入れていて、教える先生方も優れた方たちだと、高校時代の担任に勧めていただいたからです。

勝岡 私も小学校の教師をめざしています。小学校の教師なら実技などいろいろな科目を教えられるので、そこに惹かれました。共栄大学を選んだのは、自宅から近いので通学に時間がかからず、その分、資格取得などの時間にあてられると思ったからです。

飯塚 教師をめざしたきっかけは、中学1年生のときの職業体験で、小学校の先生を体験し、自分にあっている職業だと思ったこと。そして、中学3年のときの担任の先生の影響が大きかったと思います。

荒井 私が教育者になったのも、小学校6年のときの担任の先生の影響が大きいです。とても素晴らしい先生で、そのイメージをめざして教育学部に進み、小学校教

諭、中学校教諭を長年つとめてきました。飯塚君が影響を受けたという担任の先生は、どのような方でしたか？

飯塚 常に生徒の目線を見て、生徒一人ひとりのことを考えてくださる先生で、怒るときは怒る。褒めるときは褒める、教師の鑑のような方です。僕もこういう先生になりたいと思ひ、教師としての目標にしています。

内田 僕は高校時代にサッカー部に所属していて、顧問の先生には大変お世話になりました。また、僕の出身高校は生徒数が多く、とても全員の顔なんて覚えられない人数なのですが、それでも生徒一人ひとりの顔と名前を覚えていて、生徒の立場に立って物事を考え、しっかりと話を聞いてくださる先生がいて、僕もそういう人になりたいという思いがあります。

岩崎 私の中で一番印象に残っているのは、小学校5年の担任の先生です。たとえば学校行事の音楽会でピアノの伴奏者を決めるときなど、それまでの学年の担任は生徒の希望を聞かず、先生の独断で決めました。でも、5年生のときの担任はクラス全員から希望者を募り、希望者全員が伴奏を披露したうえで一人に絞り込むオーディションのような方法を取ってくれました。全員にチャンスを与えてくれたのが、とてもうれしかったのを覚えています。

荒井 生徒に対する公平性は、教師がいちばん意識しなければならないことですね。公平さを欠くと、学校教育が成立しない。そのことをきちんとわかっている先生だったんですね。

勝岡 私が印象的だった先生は、中学3年と高校3年の担任で、ちょっと似ているところ

がありました。いつでもパワフルで、ダメなことはダメと明快で、指導も厳しい先生だったんですけど、悩みごとには親身になって相談のってくれるなど、生徒一人ひとりのことをちゃんと考えてくれている方でした。

荒井 教師の元気のよさは重要ですよ。たとえ体調が悪くても、教師は教壇に立ったらその辛さを生徒に見せてはいけません。教師が元気なら、生徒も明るく元気になります。皆さんも経験しているように、教師になるほとんどの人が、どこかで素晴らしい先生と出会っているものです。中国の孟子は「最上の職業とは教師である」と言っていますが、そのくらい人が生きることに對して教育者が果たす役割は大きく、やりがいのある職業なのだと思います。



教育者に必要な 多面的な視点と信頼関係

荒井 教育者をめざす皆さんは、相手の態度や行動に間違いや理不尽さを感じてもそのまま受け止めず、違う視点からも考えることを意識してほしいですね。また、教育は生徒にきちんと伝わるのが大切で、誤



内田 達也さん(1年)
埼玉県立伊奈学園総合高校出身

飯塚 隆之介さん(1年)
埼玉県立浦和西高校出身

岩崎 有紗さん(1年)
埼玉県 大妻嵐山高校出身

勝岡 ゆきなさん(1年)
埼玉県立不動岡高校出身

解を生んでしまったら失敗です。だからこそ重要なのが、教師と生徒、教師と保護者・地域社会との信頼関係です。厚く信頼されている先生ならば、なにか問題が発生しても、保護者の側が先生を信用してくれる。でも、信頼関係が築けていないと、小さな問題が大きな誤解を招いてしまう。理不尽な要求をする保護者を「モンスターペアレンツ」といいますが、こうした問題に取り組んでいくうえでも、生徒、保護者、地域社会との信頼関係は、教育者にとって重要なテーマといえるでしょう。

小学校の教育のあり方は、 日本のあり方につながるテーマ

荒井 これから教育に携わっていく者として、教育の現場に取り入れたいアイデアはありますか？

内田 日本は世界的なIT社会なのだから、小学校1年のときからパソコンを使った授業を取り入れたほうが良いと思います。

飯塚 パソコン教育は重要だと思いますが、漢字ドリルや算数ドリルなどの学習もおそろかにしてはいけないと思います。デジタルとアナログ両面での学習が大切だと思います。

勝岡 理科などの授業はもっと実験の時間を増やし、体験的に学ぶ機会を増やした方がよいと思います。教材の映像で見ると、実際に体験した方が学習効果も高いと思うんです。

荒井 すでに総務省フューチャースクール事業として、教科書のデジタル化を図る指導法の研究が小学校で推進され始めましたね。その一方で、タイプライターが普及したアメリカでは言葉は画像的に覚える人が多く、文章を読めても書けない人が大勢いるように、書きとりによって文字や言葉を脳と身体で覚える学習も重要です。理科で実験を体験することで、効果的に学べるのもこれと同様ですよ。その一

方で、6年間という限られた小学校教育のなかで、何を学ばせるべきか、どう学ばせるべきかという問題があります。従来の学習方法を合理化し、その時間を新しい領域の学習にあてるべきではないかという考え方もあるんですね。小学校教育をどうやっていくかは、今日の国際社会で日本人がどう生きていくかにつながっていく問題でもあり、とても重要なテーマだと思いますね。



学生生活で自分の良さを磨き、 個性的な教育者に育ってほしい

荒井 それでは最後に、皆さんのこれからの4年間とその先の目標を聞かせていただけますか？

飯塚 目標は中学時代の恩師のような小学校教諭になることですが、生徒には子どものうちからひとつの道を限定せず、いろいろな経験を通じて自分の生きる道を見つけてほしいので、そういうことを教えられる教師になりたいです。

勝岡 将来は一人ひとりの良いところを見つけて、その子らしさを最大限に引き出せる教師になりたいです。

岩崎 一人ひとりの生徒に平等に接して、その子の良いところを伸ばしてあげたいと思います。

内田 自分の勤める学校でいちばん人気のある教師になりたいです。生徒の立場になって一緒に考え、生徒にも保護者にも信

頼される先生でありたいです。
荒井 素晴らしいですね。こうしてお話を聞いていても、皆さんにはそれぞれ個性がある。生徒一人ひとりに個性があるように、教師にも個性があっていいのだから、皆さんにはこれからの4年間で自分ならではの良さを磨き、その良さを教育者として発揮していただきたいですね。

先生とは「先に生きる」と書きます。生徒から「先生」と呼ばれるには、先に生きる人間として、どう生きるかを示していかなければなりません。そのためには学生生活を「楽しい」と思えるものにし、楽しさのなかで具体的な力をつけていくことだと思います。人間ですから、失敗もするし、頑張ったのにうまくいかないこともあります。でも、教育者への夢がブレないように、自分の志を絶えず見つめていってください。今日集まった4人はもちろん、共栄大学教育学部で学ぶ全員が自分の目標や夢をかなえられるよう、一緒に頑張っていきたいと思います。



荒井 豊 教授
埼玉大学卒業
兵庫教育大学大学院博士号取得
埼玉県の公立学校の教諭・校長を長年勤める
共栄大学では初等理科、初等教科教育法(理科)、
教職実践演習(幼・小)などを担当